
轍～俺は君の隣にいる～

山本 晃義

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

轍／俺は君の隣にいる

【Zコード】

Z3200P

【作者名】

山本 晃義

【あらすじ】

それまで恋愛という恋愛をしたことがなかった山上 明彦だが、一年に進学したある日、クラスメートになつた秋山 楓に一目惚れする。

幼馴染みの久保川 優美の協力もあって仲良くなれるも、ある日、楓が実は岐阜から一年前に引っ越してきたことを知り、その時に見た動搖が気になつた明彦は楓の過去を聞き出そうとしたが、逆に楓の過去の傷をえぐる結果となつてしまつ。果たして明彦と楓の二人の恋愛は上手く行くのか・・・？

・・・人生といつもののはここまで残酷でいいものなのであらうか。
人生とはここまで悲しみをこらえなればならないものなのかな。クラスマートは視線をこちらに向けては笑い、先生は目を合わせようともしない。早く終わつて欲しい。こんな授業なんて。こんな授業なんて・・・。

「キーンコーンカーンコーン」

チャイムが鳴った。そして日直が大きな声で号令をかけ、わった。その瞬間、俺は一目散にトイレに駆け込んだ。

野球の盗塁の時より速かったと思へ、それほど早くトマトに逃げ込みたかった。そして俺は急いで着替えを済ますと、教室に戻った。

「あはははは
でも似合つてたぢやん

そうだ。こいつが犯人だ。この窒息寸前の息苦しい時間の墓を作り上げた犯人だ。確かに俺は一年から続けていた昼休み恒例になつていた、優美・来斗・龍弥との大貧民大会に負けた。しかもよりによつて今日は罰ゲームをつけやがつた。この優美が！！久保川 優美が！！その内容は世にも恐ろしいものだつた。

『次の授業を全身タイツで受ける』

まあケジで引いたものだつたので文句は言えなか
やしないか・・・?

「おかげで好きな日本史の授業が史上最低の授業になつただろゝが
ゝ！あの先生は今年からの新任の先生なんだぞ！いきなりこんな
格好を田の当たりにされたらそういうことをやりがちな生徒だと思
われるだろ！！」

半泣きで優美に抗議する俺を龍弥が「まあまあ」と止めにはいる。

「まあいいじゃん。この際だからそういうキャラになつてみるつて
いつのもアリじゃないかな」アハハハ「

・・・こいつ・・・幼馴染みでなければ殺してた。確実に殺してた。
・・・！俺の黄金の右手が震えている・・・！

「それにしてもさー」

来斗が口を出してきた。

「そのタイツビニで買ったの？」

そつちかよ・・・まあ来斗の天然はおいといて・・・今はこの
腐れ縁が災いしてしまつたこの魔性の女に鉄槌を下さなければ・・・
！・！

「キーンゴーンカーンゴーン」

・・・ちつ。6限のチャイムか。命拾いしたな。そういう意味を込
めて優美を一睨みしておいた。優美はケタケタと笑つていた。二年
になつて三日が経つた。まだ一人病欠で来れてない奴もいるらしい
が、とりあえずだいぶ顔と名前は一致してきた。人の顔と名前を一
緒に覚えることには自信がある。窓際にいる、いつもボーッとした
感じのアイツは須藤。クラスで一番賑やかな友達グループの中でム
ードメーカーの役割をしているのは幡野。そして俺の隣にいるゴイ
ツは・・・誰だっけ？

「馬鹿野郎！俺を忘れるな！」

あーこいつは岩村来斗だつたか。失敬失敬。この岩村との付き合い
は高校入学からとそこまで長くはないが、今では親友とも呼べる間
柄にまでなつてゐる。男の俺が見ても相当なイケメンであり、事実
女子にはかなりモテる。しかし、まだ誰ひとりとして付き合つたこ
とがないという。その理由は・・・。

ある日の出来事だつた。来斗が神妙な面持ちで俺のところにやつて
きた。よくみると、ほおが少し腫れ上がつていた。

「なあなあ、聞いてくれよ~」

「どうしたんだよ、ほっぺた赤く腫れ上がらせて。」

「あのさー、一組の後藤つて知つてるか?」

「ああ、あの小柄の黒髪のやつか。そいつがどうした？」

「いやー 実はさ、さつき屋上に呼び出されて買い物一緒に行つてくれつて感じで言われたから「わかった。どこに?」って答えたらいきなり「はつ?！」って言われてさー、そんで「買い物だろ?」って答えたらいきなりビンタしてきたんだよ。ワケ分かんなくね?」

・・・ん?なんだ?違和感を感じる・・・。

「何だよそれ。ワケ分かんねーな。」

「 だろ？ 自分から呼び出しておいて買い物の場所も買いたい物すら言わないでいきなりビンタしてくるんだからよ。」

「んで、ちなみに後藤にはなんて言われたんだ?」

この質問の答えが、こいつへの印象を決定づけるものとなつた

いや、なんか、私と付き合いで下さい」二で顔を赤くし

たよ
よ二ほど取すかししものを買いたがてたんたな」
」

アの力でアの命に力をもつてアの力

馬鹿野郎 二本 一 始まつた 仕事合 一 一 究明 二
只 二 二 「買ひ物付キ詰つ 二 二 煙末ジンセ 二

卷之三

が驚きだよ。間違いなく本心から驚いた顔だった。今、その顔で驚けないと

とまあこんなことがあつたのが去年の5月上旬。もちろん、この後藤という子は一度と来斗には近付かなかつたそつだ。そんな訳で未だに彼女が出来ない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3200p/>

轍～俺は君の隣にいる～

2010年12月5日19時48分発行